

三世代同居 近居への支援を

町長 検討したい

町長



森本 貴之 議員

【森本】生活の多様化により、子育てに対する考え方や環境のあり方はさまざまである。

私たちは協力し合いその限りを尽くさねばならない。環境の充実と少子化対策は喫緊の課題である。

この5年間の出生数推移は。

【町長】平成26年が84人、27年が119人、28年が104人、29年が96人、30年が80人であった。

【森本】昨年は過去最低の出生数である。背景など分析しているか。

【町長】担当課で分析

している。出生時点の人数より、小中学校入学時点の数を押さえていくべきだと考える。

【森本】本町の子育ての魅力は。

【教育長】自然の中でさまざまな体験を通して子どもたちの感性を育んでいけること。また、保小中の一貫した教育で確かな育ちを保障できること。

【森本】三世代同居・近居への支援策の検討を。

【町長】同居・近居は子育て世代にとって魅力的なところもある。今後検討したい。



世代間で支え合い子どもたちを守りたい

観光の将来ビジョンは

町長

自然・食・歴史をつなぐ

【森本】自然と歴史に恵まれ、多くの観光資源を有する本町の観光産業をいかに成長させるか、基幹産業の観光はどうあるべきか考えなくてはならない。観光の将来ビジョンは。

【町長】大山・名和・中山地区の観光地点を周遊できるコースを設定し、自然・食・歴史をつなぎ、特色を生かしたアクティビティの充実をはかる。

【森本】インバウンド対応の取り組みは。

【町長】満足度を高めるために環境整備は重要と考える。多言語表記の標識や案内看板の整備、公衆無線LAN機器の整備など進めていく。

【森本】広域観光連携の現状と今後の動きは。

【町長】平成31年4月1日に鳥取県西部地域の広域観光を担う組織が設立された。圏域で

の連携をはかり、ブランド化を進めたい。

町内事業者にメリツトがある施策を引き続き行い、広域の利益になるような活動をしていきたい。



豊富な観光資源を生かしたい（たいまつ行列）